



# 会報 JAMT

JAPANESE ASSOCIATION OF MEDICAL TECHNOLOGISTS

発行所

一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会

発行責任者 宮島喜文

編集責任者 深澤憲治

〒143-0016 東京都大田区大森北4丁目10番7号

TEL (03) 3768-4722 FAX (03) 3768-6722

ホームページ <https://www.jamt.or.jp>

P1~P2 創立70周年・法人化60周年を迎えて

P3 第72回日本医学検査学会報告

P4 季刊誌『ピペット』に寄せられた感想をご紹介します

## 創立70周年・法人化60周年を迎えて

一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会 代表理事会長 宮島 喜文

令和5年6月24日、ホテル雅叙園東京において、創立70周年・法人化60周年記念式典・祝賀会を厚生労働省および日本医師会など各医療団体ならびに都道府県技師会や賛助会員などの代表者の方々をお招きして盛会に開催することができました。



歴史を紐解きますと、日本臨床衛生検査技師会（以下、日臨技）は、昭和27年7月27日に名古屋において、「日本衛生検査技術者会」として発足しました。当初、国家資格化を目指して運動を進めてきた結果、昭和33年「衛生検査技師法」が制定され、業務制限はできませんでしたが医療技術者としての身分と業務内容の確立を図ることができました。昭和37年12月には、厚生大臣から社団法人としての認可をいただくことができました。

その後、我が国が高度経済成長期に入り、国民皆保険制度が制定される中、それまで衛生行政上で大きな課題であった感染症の制圧や栄養状態の改善により、公衆衛生に関する検査から、生活習慣病の予防や診断・治療に関する検査が広く普及することとなりました。

昭和47年には、「臨床検査技師、衛生検査技師等に関する法律」が公布され、採血及び生理検査業務が追加となりました。

昭和52年には、現在の日本臨床衛生検査技師会に改称し、今日に至っております。

法人としての規模も発足当時52名の会員から始まりましたが、医学技術の発展と臨床検査の普及とともに次第に増加し、私が日臨技会長に就任した当初、5万人規模の会員数でありましたが、10

年の月日を重ね、養成校も増えたこともあり、2万人増え7万人程の会員数を擁する職能団体へと成長することができました。ひとえに、会員の皆様のおかげです。

また、この間、「日臨技を新生させ、未来を拓く」とのスローガンの下、会員は基より、対外的には行政や医療団体の関係者の皆様から厚いご支援とご協力を賜るとともに、内部的には、新たな課の増設や人員増を図る中で事務局機能を充実し、数々の大事業に取り組むことができました。

特に積年の願であった法改正では、数年間で5回もの法律改正を実現し、臨床検査技師の業務範囲は格段と拡大しました。今後は、拡大できた業務範囲を着実に臨床現場で実践することが求められています。

更に、今後も今まで以上に日臨技が会員ひとりひとりの声を集約して、制度・政策要望を創り上げ実現していくためには、国会など政治の場にアプローチする必要があります。その重要な役目を担っているのが「臨床検査技師連盟」です。「数は力なり」との言葉もありますが、現状を見ると臨床検査技師連盟の強化は急務であります。会員の皆様の積極的な参加が将来の臨床検査技師の命運を握っていると言っても過言ではないでしょう。

現在、日臨技はタスク・シフト、品質保証施設認証制度、臨地実習に関する事業を主要事業として都道府県技師会等のご協力をいただき取り組んでいます。日臨技は既に創立70周年を期に次のステージに向かって始動しています。

最近の人口知能やロボット技術の進歩など目覚ましい技術革新は、近い将来、臨床検査の現場を様変わりさせようとしています。その先では我が国の人口減少が医療の需要を低下させ、患者数や臨床検査数が減少すると予測されています。

このように厳しい時代を乗り切るために、次の策として2040年を時間軸に「次世代人材育成プロジェクト」を設立し、「社会を創る臨床検査技師」をコンセプトに未来へのグランドデザインを描き、的確な戦略の立案に向けて順次取り組んで参ります。

それらを確実に見える形とするには、現状や過去の実績・経験に囚われることなく、大胆な組織・学術などの改革を断行し、多様性を受け入れ、従来の医療や診療領域を超えて新たな分野へ進出できる人材の輩出することが必要で、会員の約7割を占める女性会員や若手会員の活躍に特に

期待しております。

日臨技の役割は20年後、30年後に会員の皆様が専門的な能力を発揮し、夢を抱いて安心して働ける環境を造っていくことであります。大変困難な仕事となりますが、避けては通れない道でもあります。

今後も我が国の将来の方向性を見極めつつ、役員一同、一丸となり会務運営を進めて参りますので、都道府県技師会及び会員の皆様の一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。

令和5年6月末日

## 創立70周年・法人化60周年記念式典ならびに祝賀会が執り行われました

令和5年6月24日に創立70周年・法人化60周年記念式典ならびに記念講演会、記念祝賀会が目黒区の日黒雅叙園にて執り行われました。

式典では榎本健太郎 厚労省医政局長、松本吉郎 日本医師会長からご祝辞をいただきました。また、臨床衛生検査業務功労者 厚生労働大臣表彰の表彰式も行われ当会会員80名が受賞されました。記念講演会では公益社団法人地域医療振興協会 地域医療研究所 北村聖 先生より「臨床検査技師の育成と期待」をテーマにご講演いただきました。記念祝賀会では畦元将吾 厚生労働大臣政務官をはじめ、関係団体、名誉会員、賛助会員など300名ほどの皆様にご出席いただき、盛大な祝賀会となりました。



宮島会長あいさつ



臨床衛生検査業務功労者 厚生労働大臣表彰 受賞者



下杉彰男名誉会員による乾杯のご発声



北村聖先生による記念講演会



祝賀会で祝辞をいただいた  
◆畦元将吾 厚生労働大臣政務官 (写真左)



式典で祝辞をいただいた  
◆松本吉郎 日本医師会長 (写真中)  
◆榎本健太郎 厚労省医政局長 (写真右)



現役女性役員による女性理事の会



# 第72回日本医学検査学会 報告

## 臨床検査技師“愛”

～ この素晴らしき仲間と未来へ～

学会長 井田 伸一

(一般社団法人日本臨床衛生検査技師会 理事)

(一般社団法人群馬県臨床検査技師会 会長)

実行委員長 梶田 幸夫

(一般社団法人群馬県臨床検査技師会 副会長)



JR高崎駅で参加者をお出迎え

数年ぶりの賑わいをみせる展示ブース



第72回日本医学検査学会は、令和5年5月20日(土)・21日(日)Gメッセ群馬・高崎芸術劇場の2会場で現地開催、6月1日～6月30日のオンデマンド配信で実施いたしました。学会プログラムは、一般演題504題(口演467題、示説37題)、特別企画として学会長講演、宮島喜文会長等による基調講演、日臨技企画5企画、公開企画4企画、特別講演4企画、72JAMT企画7企画、関甲信支部・首都圏支部学術部門の協力をいただいた教育講演9企画・シンポジウム11企画・パネルディスカッション3企画、そしてハンズオンセミナー5分野、共催セミナーはランチョンセミナー19セミナー、スイーツセミナー3セミナーとなっています。日臨技企画には国際学生フォーラムや国際シンポジウム、情勢報告やタスク・シフト/シェアなどの企画をいただきました。公開企画での群馬交響楽団の演奏会は、一般市民を含む多くの方が参加され、大変ご好評をいただきました。特別講演や72JAMT企画では、新型コロナウイルス感染症に関する企画や臨床検査技師の未来へに向けた企画を用意いたしました。一般演題504題の中には、新型コロナワクチン接種をテーマとした10演題で構成される学会長企画も含まれています。

学会参加総人数は4,532名、現地参加人数は学生、協賛企業を含め3,194名、企業展示は76社453小間でした。多くの会員に参加していただき賑やかな雰囲気を目に見ると、やはり学会は現地開催であるべきだという思いを強くいたしました。一方で、現地開催終了後に何度でも視聴できるオンデマンド配信は、どうしても会場に来られない方のためにも今後も継続していく価値があると思います。本学会での一般演題発表者には現地発表に加えオンデマンド配信用のデータ作成も依頼する形となり発表者にはご負担をお掛けしましたが多くの方にご協力いただきました。この場をお借りして感謝申し上げます。

群馬での開催は72回目にして初めてですので、できる限りのおもてなしをしたいと準備を進めてきました。群馬県や高崎市から後援や助成をいただき群馬県山本知事、高崎市富岡市長にも式典にご臨席賜りました。さらにJR東日本高崎支社の全面的なご支援、群馬

県の企業であるヤマダ電機のご協力もあり、官民一体となったオール群馬の体制で全国からの皆様をお迎えできたと思っています。

本学会は、新型コロナウイルス感染症が感染症上の位置づけが5類となり、行動制限が解除されたとはいえまだまだ予断を許さない状況の中での開催でしたが、ポストコロナ時代の幕明けに相応しく、多くの皆様が来場され、そして協賛企業様にも多くのご出展をいただき、展示ブースは人が途切れることがないほど活況を呈しましたことを改めて感謝申し上げます。学会テーマを「臨床検査技師“愛”～この素晴らしき仲間と未来へ～」とし、我々臨床検査技師が更なる高みへ上っていくという願いを込めましたが、関甲信支部・首都圏支部の学術部門の皆様はじめ多くの方にご支援をいただき、幅広い企画内容は質、量ともに充実したものになり、臨床検査技師の未来へと繋がるものとなったと自負しております。

来年の第73回日本医学検査学会は一般社団法人石川県臨床衛生検査技師会が担当で、学会長は油野友二北陸大学医療保健学部長、実行委員長は長原三輝雄石川県臨床衛生検査技師会会長、会期は令和6年5月11日(土)・12日(日)、石川県立音楽堂、周辺のホテル等5会場を会場に現地開催されます。是非、多くの会員の皆様の参加により盛會に開催されることを祈念いたします。

末筆ではございますが本学会開催にあたり多大なるご支援とご協力をいただきました日臨技関甲信支部・首都圏支部の皆様、日臨技の皆様、群臨技の皆様、学会運営関係の皆様、ご参加いただいた会員の皆様、協賛企業の皆様にご心から御礼申し上げます。

略儀ではございますがこの書面にて、学会終了の報告と御礼のご挨拶を申し上げます。

当会では国民の皆様にも臨床検査技師の存在をもっと知っていただくため 季刊誌『ピペット』を発行しています。

2023 春号 (vol.39) にも読後感想として、たくさんの感想や応援メッセージをいただきました。

医療現場で働く会員の皆様にも励みにしていただきたく、寄せられたメッセージをいくつかご紹介いたします。



- ・技師さんの手慣れた動作、ちょっとした気遣いで安心して検査を受けることができます。(埼玉県・女性)
- ・採血の際、技師さんが「今日は寒いから手・背冷えてますねえ」と私の手に、手を重ねてくれました。その仕草に感動して涙しました。病人への配慮、うれしかったです。(香川県・男性)
- ・私の病院の検査技師の方は皆、まじめでコツコツをお仕事をされる方ばかりです。信頼がおけて尊敬しています。(兵庫県・女性)
- ・正確なデータは診断の第一歩ですね。いつもありがとうございます。(福岡県・男性)
- ・臨床検査技師の仕事は病気の要因を突き止める重要な職業だということがわかりました。(埼玉県・女性)
- ・普段表でお見かけしないし見かけてもわかりませんが、大事なお仕事！皆さん頑張ってください。(京都府・女性)
- ・臨床検査技師さんの視点からの発信が新鮮でした。(岡山県・女性)

『季刊誌ピペット』を配布いただける施設を募集しています。冊子・送料は無料です。イベント等での単発の配布も承ります。

ご協力いただける方は右のURLから「配布協力施設登録申込用紙」をダウンロードし、ご記入の上、当会事務局までFAXまたはメールでお申込みください。過去号をご覧になりたい方はQRコードからも閲覧いただけます。

<https://www.jamt.or.jp/books/pipette/>

Fax: 03-3768-6722

mail: [pipette@jamt.or.jp](mailto:pipette@jamt.or.jp)



(編集後記) 連日の猛暑、まだ地球温暖化が騒がれることもなく、クーラーなど必要のない子ども時代を過ごした私にはうんざりする毎日である。そんな中、栃木県技師会として5年ぶりに高校生講座を開催した。コロナ禍の中、臨床検査技師の知名度もあがり医療職に夢を抱く多くの高校生が参加してくれた。創立70周年を迎えた我々の技師会も若い技師たちが誇りを持って働いていけるような職能団体を目指して発展していくことを願うばかりである。

(日高)